

いばらきネットモニター 抗菌薬等に関する意識調査

**1 調査の概要**

(1) 調査形態

- ・調査時期：令和元年11月11日(月)から令和元年11月24日(日)まで
- ・調査方法：インターネット(アンケート専用フォームへの入力)による回答  
いばらきネットモニター数：564名(県内モニターのみ)
- ・回収率：49.3%(回収数278名)
- ・回答者の属性：(百分率表示は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある)

		回答者数(人)	比率(%)
全体		278	100.0
性別	男性	142	51.1
	女性	136	48.9
地域別	県北	33	11.9
	県央	105	37.8
	鹿行	17	6.1
	県南	95	34.2
	県西	28	10.1
年齢別	10歳代	1	0.4
	20歳代	8	2.9
	30歳代	54	19.4
	40歳代	66	23.7
	50歳代	69	24.8
	60歳代	39	14.0
	70歳以上	41	14.7
職業別	自営業	18	6.5
	会社員	95	34.2
	団体職員	8	2.9
	公務員	9	3.2
	主婦・主夫	72	25.9
	学生	4	1.4
	無職	49	17.6
	その他	23	8.3

(2) 調査の目的

この調査は、本県における薬剤耐性対策の推進にあたり、抗菌薬や薬剤耐性等への県民の皆様の認識を把握し、今後の取組みの参考資料とすることを目的として行いました。

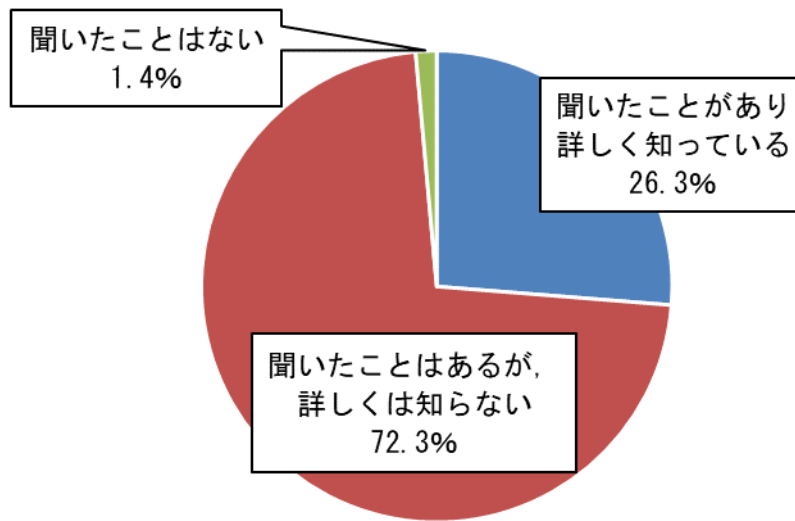
【担当】茨城県衛生研究所 企画情報部

電話：029-241-6652

E-mail：eiken1@pref.ibaraki.lg.jp

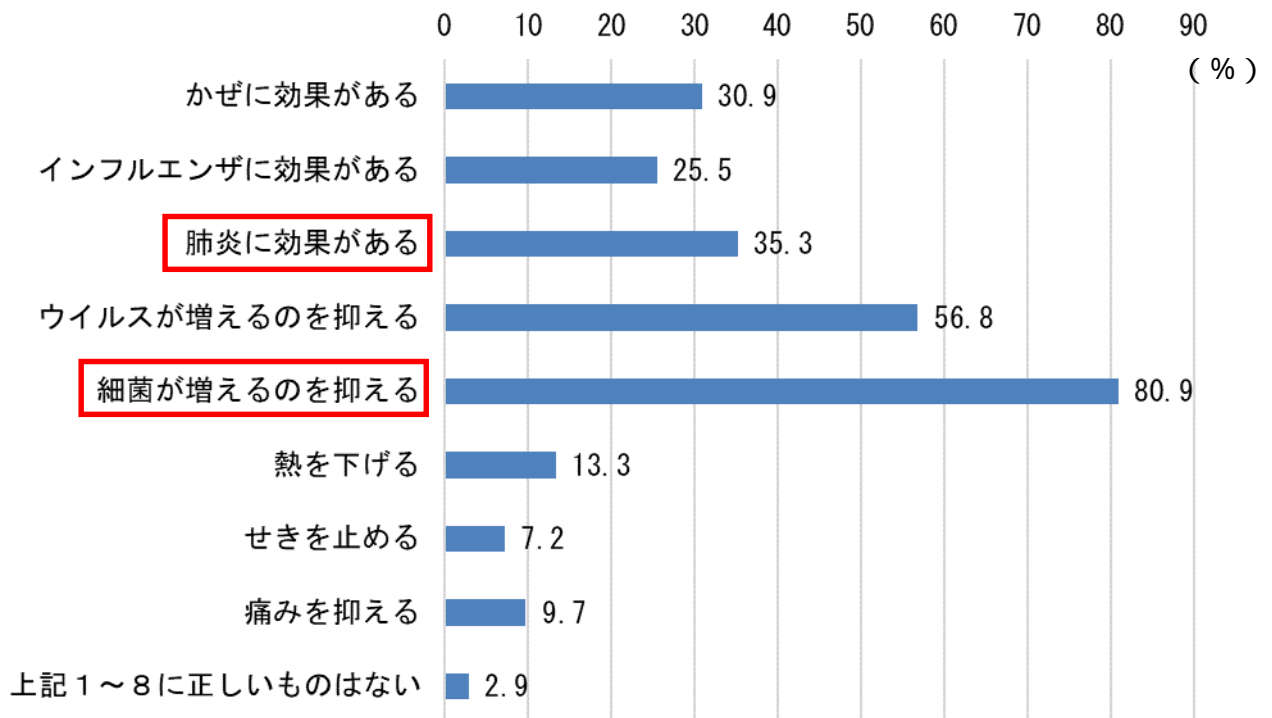
## 2 調査結果と考察

【問1】あなたは、抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがありますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。



抗菌薬・抗生物質の認知度（「聞いたことがあり詳しく知っている（26.3%）」、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない（72.3%）」を合わせた【聞いたことがある】割合）は、9割台後半（98.6%）となりました。

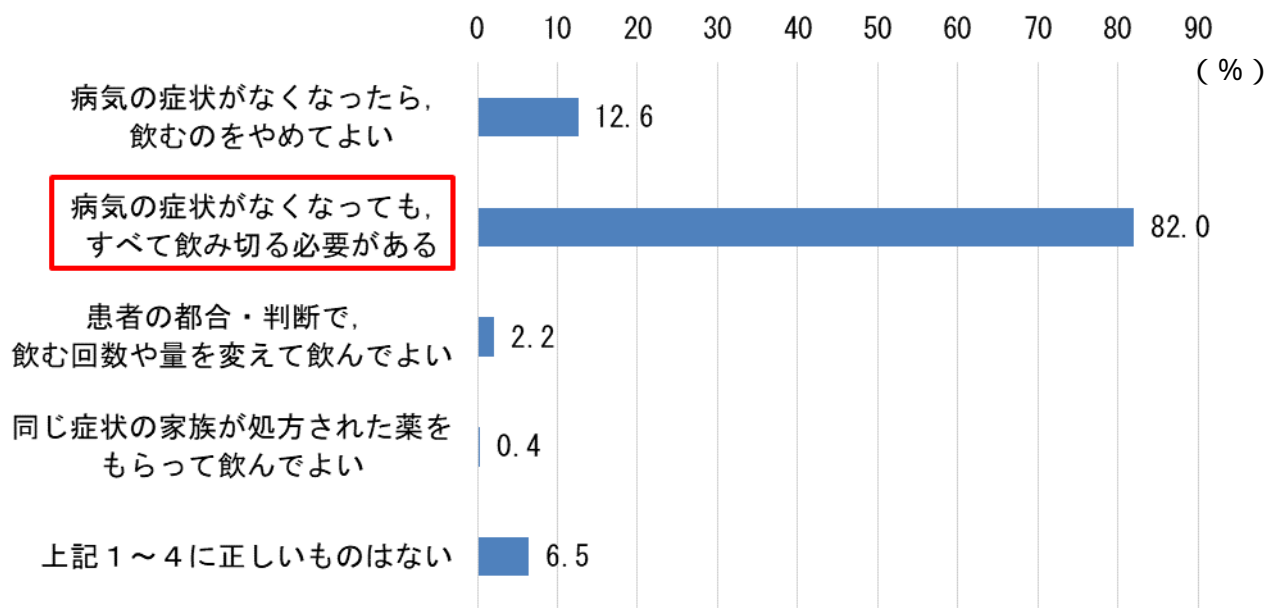
【問2】抗菌薬・抗生物質の効果について、次の中であなたが正しいと思うものを選んでください。（複数回答可）



抗菌薬・抗生物質は、細菌を壊したり、細菌が増えるのを抑える薬です。多くのかぜやインフルエンザの原因はウイルスなので、効果を期待できません。（赤枠の選択肢が正答。）

「細菌が増えるのを抑える」と正しい認識を持つ方が約 8 割（80.9%）いる一方で、「ウイルスが増えるのを抑える」（56.8%）、「かぜに効果がある」（30.9%）、「インフルエンザに効果がある」（25.5%）と回答した方もいました。

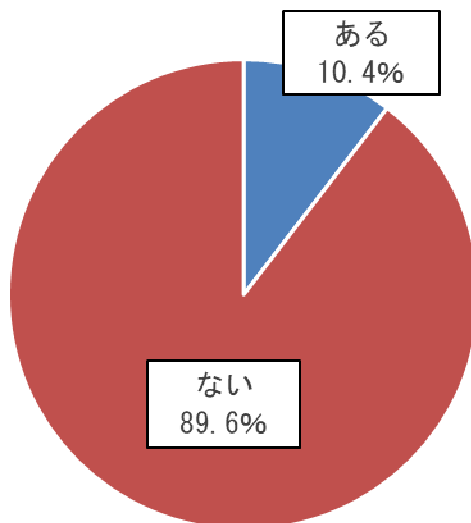
【問3】抗菌薬・抗生物質の飲み方について、次の中であなたが正しいと思うものを選んでください。（複数回答可）



抗菌薬・抗生物質は多くの種類があり、医師は患者さんに最適な薬を処方します。また、薬によって1日に飲む回数や1回に飲む量が異なります。飲むのを途中でやめたり、飲む回数・量を勝手に変えてしまうと、病気がきちんと治らない恐れがあります。また、残った薬や他人の薬を自分の判断で飲むと、病気に合わなければ効かないだけでなく、思わぬ副作用が出ることもあります。（赤枠の選択肢が正答。）

8割を超える方（82.0%）が「病気の症状がなくなっても、すべて飲み切る必要がある」と正しい認識を持っていましたが、「病気の症状がなくなったら、飲むのをやめてよい」（12.6%）という回答は1割を超えました。

【問4】あなたは、飲み残した抗菌薬・抗生物質、家族や他人からもらった抗菌薬・抗生物質を飲んだことがありますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。



飲み残した抗菌薬・抗生物質、他人の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがあると回答した方は約1割（10.4%）でした。

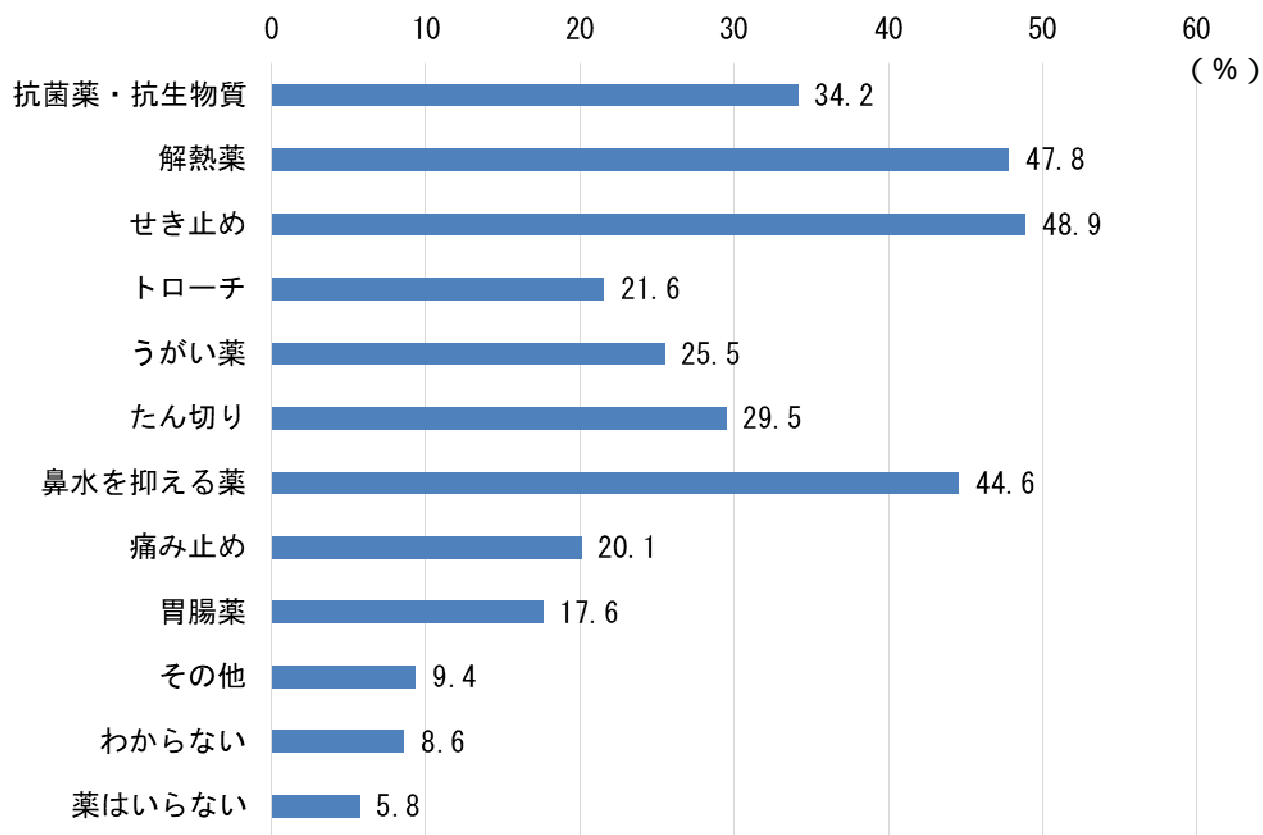
【問5】(問4で「1 ある」と答えた方にお伺いします。)

どのようなときに飲み残した・もらった抗菌薬・抗生物質を飲みましたか。(例：かぜをひいたとき、熱が出たとき)(自由記述)

回答数：29件

- ・かぜをひいたとき
- ・具合が悪いと感じたとき
- ・熱が出たとき
- ・薬が処方された時と同じ症状と感じたとき      など

【問6】あなたは、今後かぜで医療機関を受診する場合、どんな薬を処方してほしいですか。  
(複数回答可)

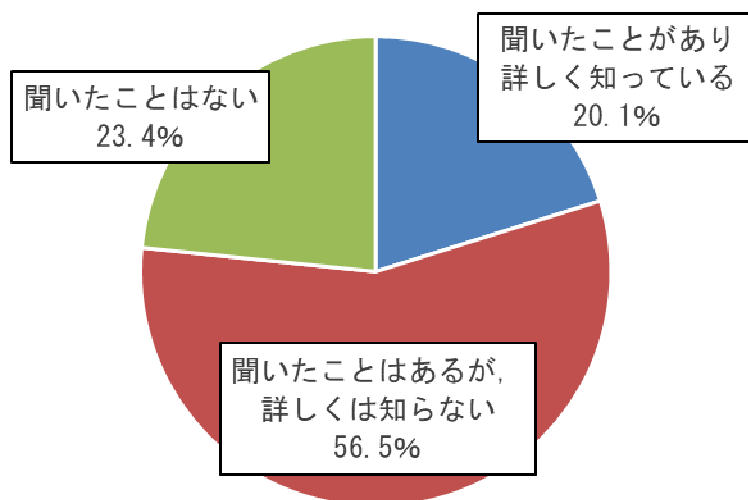


その他（自由記述） 26件

- ・その時の症状にあう薬
- ・漢方薬
- ・医師の処方に任せる
- ・喉の炎症や痛みを抑える薬 など

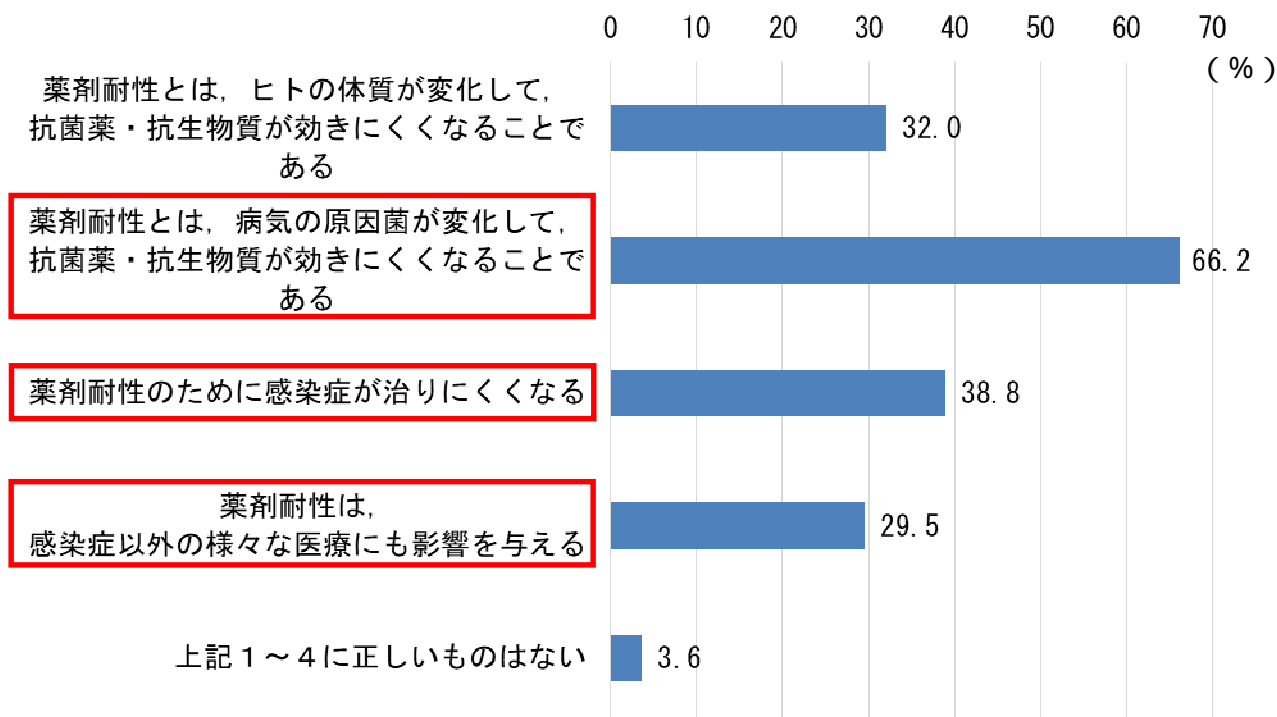
多くのかぜの原因はウイルスなので、抗菌薬・抗生物質の効果は期待できません。しかし、抗菌薬・抗生物質の処方を希望すると答えた方は3割台半ば（34.2%）となりました。

【問7】あなたは、薬剤耐性、薬剤耐性菌という言葉聞いたことがありますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。



薬剤耐性、薬剤耐性菌の認知度(「聞いたことがあります詳しく知っている(20.1%)」、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない(56.5%)」を合わせた【聞いたことがある】割合)は、7割台半ば(76.6%)となりましたが、抗菌薬・抗生物質(問1)と比べると認知度が低いことが分かりました。

【問8】薬剤耐性について、次の中であなたが正しいと思うものを選んでください。(複数回答可)



薬剤耐性とは、病気の原因菌が変化して、抗菌薬・抗生物質が効かない、効きにくくなることです。薬剤耐性菌が増えると、これまで抗菌薬・抗生物質を飲めば治っていた感染症が治りにくくなり、手術の実施が困難になるなど、様々な医療にも影響を与えます。（赤枠の選択肢が正答。）

「ヒトの体質が変化して抗菌薬・抗生物質が効きにくくなる」(32.0%)と回答した方は3割を超えました。